

●今月号の元気な話題●

- * 仙台・松島エリア冬キャンペーン「冬も魅力たっぷり！仙台・松島エリア満喫旅！」情報発信ページを開設しました！【地方振興部】・・・1
- * 「荒浜漁港公園供用開始式」を開催しました！【水産漁港部】・・・2
- * 栃木県のイベントで仙台管内の観光と物産PRを行いました！【地方振興部・水産漁港部】・・・2
- * 仙台市内にいちご観光摘み取り農場がオープンします！【農業振興部】・・・3
- * 漁業士が小学生にノリやカキに関する体験学習を指導しました！【水産漁港部】・・・3
- * 復旧・復興への感謝の証～派遣職員へお礼状と感謝米の贈呈が行われました～【農業農村整備部】・・・4
- * 「塩竈市新魚市場」落成記念式典が開催されました！【水産漁港部】・・・4
- * ～みなと塩竈旨いもん～『塩竈フェア』を開催しました！【水産漁港部】5
- * 被災地でいちご栽培に取り組む青年農業者が宮城県代表として成果を発表しました。【農業振興部（巨理農業改良普及センター）】・・・5
- * 自然保護員の10年を振り返って【林業振興部】・・・6

みやぎ水産の日 ●今月のおすすめ●

【カキ】



海のミルクと呼ばれ、
宮城の冬を代表する食材です。
宮城県の生産量は**全国第2位!**
生でも、加熱しても
美味しく召し上がれます!



仙台・松島エリア冬キャンペーン「冬も魅力たっぷり！仙台・松島エリア満喫旅！」 情報発信ページを開設しました！

【地方振興部】

「宮城 湯渡り（ゆわたり）上手な冬の旅」が12月1日から3月31日まで全県で開催されています。仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会（構成(15市町村と県)：仙台市，塩竈市，名取市，多賀城市，岩沼市，富谷市，亶理町，山元町，松島町，七ヶ浜町，利府町，大和町，大郷町，大衡村，山形県天童市，宮城県仙台地方振興事務所地方振興部）では，同期間に「仙台・松島エリア」の冬の魅力を満喫してもらうため，観光情報発信ページを開設しました。温泉情報やお勧めグルメ等の情報のほか，各市町村で開催される冬のイベント情報も掲載しました。

冬キャンペーン期間中，ホームページをご覧になって，仙台・松島エリア各地にぜひ足をお運びください。

「冬も魅力たっぷり！仙台・松島エリア満喫旅！」

情報発信ページはこちらから

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/site/event/fuyukyannpe-n.html>



「冬も魅力たっぷり！仙台・松島エリア満喫旅！」
イメージ画像

「荒浜漁港公園供用開始式」を開催しました！

【水産漁港部】

巨理町に位置する荒浜漁港において、11月22日に「荒浜漁港公園供用開始式」を開催しました。

「荒浜漁港公園」については、東日本大震災により全壊の被害を受けたため、復旧工事を行ってきましたが、この度完成したことから、巨理町をはじめ地元関係者の方々の御臨席を賜り、供用開始式を開催したものです。

本公園は、港内を一望できる展望テラスのほか、延長100mの釣りデッキ、芝生広場、トイレ、40台駐車可能な駐車場などを設備しており、行楽や釣りなど、多目的に御利用いただけますので、ぜひ、おいでください。



「荒浜漁港公園」が復旧しました



テープカット



巨理町三戸部副町長様の御祝辞

栃木県のイベントで仙台管内の観光と物産PRを行いました！

【地方振興部・水産漁港部】

10月28日、栃木県で毎年開催されている、「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2017」に参加してきました！
イベント当日は、6年前の東日本大震災の際に、巨理町・山元町ヘイチゴの苗を100万本無償提供いただいたことや、震災後、毎年応援職員を派遣いただいていることへの感謝の気持ちを伝えるとともに、復興状況を報告するパネル展示（作成協力：農村振興課，農業農村整備部，巨理農業改良普及センター）などを行いました。



フェア当日の様子



↑とちまるくんのお誕生会の様子（上）と
↓パネル展の様子（下）



また、かまぼこや干物、海苔などの水産加工品や「復興支援感謝のカキ汁」、キッチンカーでのホタテのバター焼きやカキフライの販売など、宮城の食の魅力を存分にPRしたほか、仙台松島エリアのおすすめ観光情報などを紹介しました。さらに、栃木県PRキャラクター「とちまるくん」のお誕生会へむすび丸の参加、仙台うみの杜水族館親子チケットなどが当たる抽選会などを行い、宮城県ブース前は多くの人で賑わいました！

土日の二日間を予定したイベントが、台風22号の影響で二日目中止になってしまうなど、想定外のこともありましたが、お買い求めいただいたお客様からは「宮城県に行きたくなった」、「また来年も来てください」など、温かいお言葉をいただき、管内のPRにつながりました。

仙台・宮城元気ニュース [2]

仙台市内にいちご観光摘み取り農場がオープンします！

【農業振興部】

東日本大震災で被災した農家3戸で設立された株式会社一莓一笑(いちごいちえ)は、東日本大震災農業生産対策交付金を活用して山元町で平成25年からいちご生産を行っています。この度、仙台市内に、観光摘み取りをメインとした新しい農場をオープンします。

平成28年度に県の大規模園芸経営体育成事業を活用して、仙台市泉区松森の「スポパーク松森」の北側に約3,000㎡の鉄骨ハウスが建設され、現在では「もういっこ」や「とちおとめ」など、約2万株が生産されています。ハウス内は、バリアフリー化され、通路幅も通常のハウスの1.4倍にすることで摘み取りがしやすく、車いすでの利用も可能となっています。オープン後は、いちごの直売コーナーも設置され、収穫したてのいちごを購入することもできるようになります。

現在、“いち(1)・ご(5)”にちなんで平成30年1月5日オープンを目指して準備を進めているとのことです。詳しくは株式会社一莓一笑にお問い合わせください。

(問い合わせ先：株式会社一莓一笑 電話050-3805-1518)



収穫を待つ松森農場のいちごたち

漁業士が小学生にノリやカキに関する体験学習を指導しました！

【水産漁港部】

1 1月5日に仙台うみの杜水族館において、宮城県漁業士会南部支部主催のワークショップ「漁師が教えます～今からが旬の宮城県のノリとカキのおいしさの秘密」が開催されました。ワークショップは、小学生とその保護者を対象とし、午後2回行われました。参加者を当日募集したところ、すぐに定員(12名/回)に達するほどの人気ぶりでした。

→
漁業士からカキの体の仕組みを教わる児童



←
漁業士からノリの手すきの方法を教わる児童

ワークショップでは、漁業士からノリやカキの養殖の説明があった後、ノリの手すき・焼き体験、カキの解剖、カキ剥きの体験学習を行いました。参加した児童は水産業の現場の話に興味深く聞き、漁業士から指導を受けながら体験学習に楽しく取り組んでいました。参加した保護者からは「普段食べているノリやカキがどのように作られているのか、子どもたちに教える機会もないので、作っている方から直接教えてもらい、良い機会となった。」等の意見をいただき、宮城県の水産業を身近に感じてもらうことができたようです。

復旧・復興への感謝の証

～派遣職員へお礼状と感謝米の贈呈が行われました～

【農業農村整備部】



贈呈された感謝米

東日本大震災により甚大な被害を受けた仙台地方振興事務所管内の被災土地改良区が協力し、生産基盤の早期再生と農業農村の復興を目的とした「仙台平野沿岸地区被災土地改良区復旧・復興推進協力会※」が平成27年に設立されています。

当協力会では、農業農村整備事業に関係する各公所を回り、これまでの協力と支援に感謝する「東日本大震災復旧・復興感謝祭」を毎年実施しており、今年度も11月17日に実施されました。

当部においても、他県から派遣されている職員へ土地改良区理事長から感謝の証としてお礼状と感謝米の贈呈が行われました。受け取った職員からは「美味しいお米をいただき感謝します。これからも宮城の復旧・復興のために全力を尽くしたい。」という言葉がありました。

当部はこれからも、派遣職員の皆さんと協力し、復旧・復興事業を進めていきます。

※会員：亘理土地改良区、名取土地改良区、仙台東土地改良区、宮城郡七ヶ浜町七ヶ浜土地改良区、鶴田川沿岸土地改良区



派遣職員との記念写真

「塩竈市新魚市場」落成記念式典が開催されました！

【水産漁港部】

塩竈市が整備を進めていた「塩竈市新魚市場」が10月25日に全面供用開始され、落成記念式典が開催されました。

塩竈市魚市場は、東日本大震災とこれに伴う津波により、大きな被害を受けたことから、塩竈市が平成25年12月から高度衛生管理に対応し、見学デッキや食堂などの施設を兼ね備えた新魚市場の整備を進めていたものです。新魚市場は、漁船からの水揚げを行う南棟、会議室や貸事務所、食堂などが入る中央棟、陸送冷凍魚を扱う東棟から構成され、完成した施設から供用されていましたが、このたび全施設が完成し、10月25日の全面供用を迎えました。

全面供用に併せて開催された式典には、卸売人、廻船問屋、買受人、漁業関係者のほか吉野復興大臣、村井知事をはじめとする来賓約200人が出席して完成を祝いました。

また、10月29日には新魚市場の完成を記念した「塩竈市魚市場開放まつり」が行われ、15,000人の一般客が餅まきや海産物つかみ取りなどを楽しみました。



↑落成を記念しテープカット



↑魚市場空撮

～みなと塩竈旨いもん～『塩竈フェア』を開催しました！

【水産漁港部】

県と塩竈市、イオンリテール(株)との共催による～みなと塩竈旨いもん～『塩竈フェア』を11月3日から5日の3日間、山形県天童市のイオンスタイル天童を会場として開催しました。

このフェアは塩竈が誇る水産加工品の魅力をPRする目的で開催したもので、塩竈市内で生産された水産加工品などの試食・販売のほか、記念イベントとして豪華景品が当たるガラポン抽選会やむすび丸とのじゃんけん大会などを実施しました。



賑わいを見せる会場の様子



解体後のマグロ（三陸塩竈ひがしもの）

3連休ということもあって、家族連れの来場者が多く、親子でイベントに参加する姿も見受けられ、なかでも、メバチマグロ（三陸塩竈ひがしもの）の解体ショーでは、56kgもあるメバチマグロを職人が解体していく迫力満点の様子に、会場は大いに盛り上がりました。

今回は、初めて県外で『塩竈フェア』を開催し、塩竈が誇る水産加工品の魅力を加工事業者自らがPRしたほか、調味料会社とも連携し、レシピ提案なども行いました。多くの皆様が来場され、たくさんの商品を購入していただきました。今後は、さらなる販路の拡大が期待されます。

被災地でいちご栽培に取り組む青年農業者が 宮城県代表として成果を発表しました。

【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】

11月1日～2日、岩手県花巻市において東北農村青年会議岩手大会が開催されました。この大会は、東北六県の青年農業者約200名が参加し、日ごろの農業経営や農村生活で得た知識や技術の成果を情報交換することを目的に毎年開催されているものです。



← 宮城県代表として
成果を発表する鈴木さん

今回は、被災地でいちご栽培に取り組んでいる亘理町の鈴木好信さんが、宮城県代表として発表を行いました。鈴木さんは、いちごの宮城県オリジナル品種である「もういっこ」を栽培しており、相場が高い12月の収量を高めるための取り組みを発表しました。取り組みの結果、相場が高い時期の収量が3割以上向上し、増加した売上から取り組みに要した経費を差し引いた所得もプラスとなった成果を発表しました。審査の結果、残念ながら東北代表として全国大会に出場することはできませんでしたが、鈴木さんは1年以上前からプロジェクト発表を準備する中で、他のクラブ員や関係機関からたくさんの協力や応援をいただいたことが、感謝の気持ちと大きな自信につながったようです。

今回は、自然保護員の菊地豊志さんにお話を伺ったので紹介します。

菊地さんは、平成20年4月から塩竈市と利府町を担当され、平成30年3月で勤続10年を迎えるため、規定により自然保護員を退任されます。

菊地さんは利府町出身で、子供の頃はお腹がすくと、春はウグイスカグラ、モミジイチゴ、クワノミ、秋にはナツハゼ、クリ、オニクルミ、ギンナンなどの山の木の実をよく食べたそうです。遊び場所だった山や川では、コウタケ、サクラシメジ、ムラサキシメジなどのキノコやウグイやウナギなどの魚が取れたことなど、今よりも自然が豊かだった頃の思い出を語っていただきました。また、今では絶滅危惧種となっているオキナグサの群生地が、現在は開発され団地となってしまったとも感慨深げに話されました。



渡り鳥を観察する菊地豊志さん

この10年間に怪我をした色々な動物や野鳥を保護してきたなかで、特に印象深かったことは、平成22年に事務所の依頼で対応した飛べない状態の猛禽類の保護だそうです。翼などが傷付かないよう慎重に捕獲し、みやぎ野生動物保護センターに運び込んだところ、オオタカの幼鳥であることがわかり、この町にオオタカが生息しているとは思っていなかったもので、たいへん驚いたとのことでした。

菊地さんには、これまで野生鳥獣の保護管理のほか、県立自然公園松島や県民の森などの環境の保全、東日本大震災後に増加した土砂採取場の巡視活動など、地域に密着した活動でご活躍いただいたことに感謝申し上げます。

★平成30年1月のイベント情報を掲載しました！★

*1月は仙台管内各地の「どんと祭」などのイベント、旬のいちご狩りの情報などが盛りだくさん！ぜひご覧ください♪

→ <http://www.pref.miyagi.jp/site/event/> または →



*宮城県広報課Facebookでも「魅力ハンター」として、今が旬の食べ物や景色、それに関するイベント情報などを発信しています！ぜひご覧いただき、冬のお出かけにお役立てください☆

→ <https://www.facebook.com/pref.miyagi> または →



問合せ先：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部（白石）

TEL：022-275-9140 FAX：022-275-0296 E-Mail：sdsinbk2@pref.miyagi.lg.jp

HP：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/>

※次号は平成30年2月下旬発行予定です。